

宮柁二記念館だより

2011. 3. 25

第 34 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



昭和52年、帰郷の際に魚野川湖畔を歩く宮柁二

いごころ

宮柁二記念館長 小島克朗

平成十二年四月から十年間、記念館の運営にご尽力いただいた平澤前館長の後任としてお世話になっております。記念館も平成四年の開館から早や十八年が経過いたしました。この間、中越大震災をはじめ多くの困難がありました。英子先生をはじめとしたご遺族の方々、また、コスモス短歌会、記念館友会の皆様など、これまで全国の多くの皆様方からご支援をいただけてまいりました。皆様の熱い想いとこれまで築いていただいた実績を汚さないよう、できることから着実に歩を進めてまいりたいと考えているところです。宜しくお願いを申し上げます。

さて、平成二十二年度の特別企画展「宮柁二望郷の歌展」では、ふるさとを愛してやまなかった柁二が、この地をあとにしてから詠んだ歌を中心に関連資料を展示させていただきました。十一月には第十六回全国短歌大会を開催、今回も小、中、高校生のジュニア部門をはじめ、一般の方々からは海外からのものを含め八千首を超す多くの応募をいただきました。特に今回は小学生、高校生から過去最高の応募をいただきました。

ご来館いただく方々には、「親切で明るく……」をモットーに精一杯の対応を心がけてまいります。

宮柁二記念館が一部の短歌研究者、愛好者だけでなく広く地域の皆様にひらかれた記念館となりますよう変わらぬご指導とご支援を重ねてお願い申し上げます。

「望郷」にこめた感謝の想い

多くの望郷の歌を詠んだ宮柁二にとって、故郷への想いはどのようなものだったのでしょうか。平成二十二年度は、そんな視点から特別展を企画しました。柁二の生涯を通して、さまざまなエピソードから見えてきたのは、柁二が出会った多くの人々への「感謝」の想いでした。

望郷の想い

平成二十二年度の特別展示は、「宮柁二 望郷の歌展」と題し、宮柁二がどのような気持ちで故郷のことを思っていたのか、紹介しました。柁二は生涯、故郷を大切にし、たくさん望郷の歌を詠みました。東京に暮らしながら、短歌をつくり続けた柁二にとって、故郷への想い



夢に立つ山紫水明雪白き八海山と清き魚野川

はどのように育まれたのでしょうか。柁二の生涯を追いながら、考えてみました。そこから見えてきたのは、柁二が出会った多くの人々への感謝の想いでした。

ふるさとを離れて

柁二は「自分はふるさとを捨てた人間である」ということをよく口にしていました。それは、故郷を離れるにあたって、短歌を真剣に学びたかったという思いと、家業をあきらめざるをえなかったという思いが、交互に湧き上がってきたからではないでしょうか。一方で、魚沼・堀之内のことを歌に詠み、少年時代を偲ぶことをはばからなかったことから、そんな複雑な気持ち



東京での居場所

ふるさとを「捨てた」柁二はあてもなく上京します。当然そこには自分の居場所はありませんでした。居場所の無い自分にとって、ぬぐいきれない不安もあったことでしょう。

しかし、運命的に北原白秋に才能を見出され、白秋主宰の短歌雑誌「多磨」を通して、同世代の仲間が増えていくようになります。それは柁二の、はじめての居場所といえるものでした。そして、瀧口英子と出会います。戦争をはさんで結婚、子室にも恵まれ、柁二にとってかけがえのない家族となりました。また、コスモス短歌会で歌を学びあい、三千人あまりの仲間との絆もできま

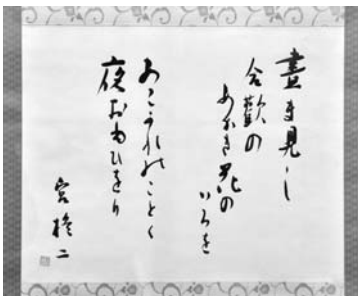
展示資料から

「昼間見し合歓の花」

昼間見し合歓のあかき花の色をあこがれのごとく夜おもひをり

柁二は生前、この歌を多く書き残し、様々な人たちに贈っています。処女歌集『群鶏』に収められたこの歌は、もともと、昼に会った女性のことを、合歓の赤い花にたとえ、その美しさを夜になって憧れのように思い出している、と解釈されています。

しかし後年になって贈られた書は、「出会いそのものをうれしく思い、今でもその出会いを大切にしている」という意味に解釈をしてみました。一つ一つの出会いを大切にしていた柁二だからこそ、この歌を好んで書に残し、大切な人に贈っていたのではないのでしょうか。



柁二が好んで書に残した歌。出会いの美しさが詠みこまれています。

英子夫人を招いての オープニング

「宮柁二望郷の歌展」は平成二十二年四月二十九日、英子夫人をはじめ多くの方をお招きして、オープンしました。当日は、市制五周年記念事業で製作した写真集「宮柁二のふるさと」の出版祝賀会も控えており、大勢の方から参加していただきました。

テークカットのあと、皆さんから館内を見学していただき、随所で英子夫人から、展示資料に関するエピソードを紹介していただきました。



望郷のエピソードを語る英子夫人。元気なお姿を拝見できました。

※「宮柁二 望郷の歌展」は平成二十三年五月二十二日まで延期します。まだご覧になっていない方はこの機会にぜひおいでください。



昭和52年、柁二の芸術院賞受賞を祝い、故郷の友人たちが中心となって、母校・堀之内小学校に歌碑を建立します。

ふるさととの交流

一方、柁二のふるさと・堀之内も柁二のことを忘れてはいませんでした。

柁二は故郷の友人たちから「はじめさ」と呼ばれ、親しまれていました。柁二の歌壇での活躍は、そんな友人たちにとっても誇りでありました。昭和五十二年には、日本芸術院賞の受賞を記念して、柁二の母校・堀之内小学校に歌碑が建立されます。また、昭和五十四年には堀之内町から名誉町民の称号が贈られます。

故郷を遠くに望んで

晩年、柁二は糖尿病から派生する多くの病に苦しむこととなります。

病床につき、ふるさとへ想いをほせることも多かったのでしょうか、いくつもの望郷の歌が詠まれています。体が衰えていくなか、昭和六十年に町制施行六十周年の記念式典に出席するために帰郷します。歩くこともままならなくなり、車椅子での訪問となりましたが、月岡公園にも行き、町を一望しました。この時が最後の帰郷となりました。

感謝の想い

「望郷の想い」とは人によって様々でしょう。確かに懐かしい想いというものは共通しているかもしれませんが、それでは、宮柁二にとってはどのようなものだったのでしょうか。

四月二十九日のオープニングセレモニーでは、英子夫人からもおいでいただき、柁二と故郷について様々なエピソードを聞かせていただきました。その中で「柁二は大勢の皆さんから良くしていただいて、幸せ者だった」という言葉がありました。

故郷の友人たち、コスモス短歌会はじめ短歌を通して知り合った人たち、そんな柁二をめぐる人々は、みんな絆で結ばれていました。その原点が故郷・堀之内だったのです。晩年、柁二が故郷を想うときには、

その風土の姿もさることながら、これまでに出会った人たちの姿もそこに合わせて想い描いたのでないでしょうか。それは、ふるさとへの感謝の気持ちであり、出会った人たちすべてへの感謝の想いだったのではないのでしょうか。

そんな柁二と、柁二をめぐる人たちとの関係をよく伝える資料があります。一畳ほどの大きな紙にびっしりと書かれた寄せ書き。それは昭和四十七年、柁二の還暦を祝うため、堀之内に集まった人たちが書き連ねたものです。そこには、ふるさとへの友人たちの名前もコスモスの歌人たちの名前も、分け隔てなく、「宮柁二」を囲むように記されています。柁二が多くの人たちに支えられ、柁二はみんなへ感謝の想いを抱いている、そんな様子がうかがえる貴重な資料です。

(終)



昭和47年柁二の還暦祝賀会での寄せ書き。故郷の友人、コスモスの歌人たちの名前がびっしりと記されています。

第十六回宮柵二記念館全国短歌大会

八、二四九首の応募

選者に大島史洋さん、日野原典子さんをお迎えし、全国から総計八、二四九首が寄せられ、十一月二十一日には、約三百人が参加して、第十六回となる全国短歌大会が開催されました。

【一般の部】
最優秀賞

投票に行くどふ気力重んじて九十七歳の父の手を引く

下月加津

選者賞（大島史洋 選）

幼子のはなしは「あのね」と目の笑ふ「あのね」につづくことば待ちをり

吉仕節子

選者賞（日野原典子 選）

癌病むも生ある証と諾ひて誕生日今日席に祝はる

一宮正治

【ジュニア部門（小学生の部）】
最優秀賞

半日もかけて歩いてきたぼくにおつかれさまと言う尾瀬の星

滝沢 光

選者賞（大島史洋 選）

お母さんともきれいなえがおだねわたしもそんな人になれるかな

高頭明里

選者賞（日野原典子 選）

ねる前にコオロギの音にすずしさをもらって少し体休まる

山形直輝

【ジュニア部門（中学生の部）】
最優秀賞

百年にあるかないかの異常気象からすも暑いと田の水浴びる

山下 凜

選者賞（大島史洋 選）

橋の下野菜を洗うおばあちゃん自然の中の天使みたいだ

佐藤佳菜

選者賞（日野原典子 選）

夜になり走って帰るぼくを見て月もあせって追いかけて来る

青木美輝洋

【ジュニア部門（高校生の部）】
選者賞（大島史洋 選）

自転車に乗ったあなたが僕を越す夏のおいがふわっと包んだ

渡部結衣

選者賞（日野原典子 選）

広島原爆ドームが物語る争いごとの真の恐さを

佐藤優希

短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	714 首	304 人
ジュニアの部	7,535 首	3,861 人
（小学生）	3,109 首	1,591 人
（中学生）	2,044 首	1,043 人
（高校生）	2,382 首	1,227 人
総 計	8,249 首	4,165 人



ジュニア部門特別賞の直筆短歌

今回、初めての試みとして、ジュニア部門の特別賞受賞者からも、作品の自筆清書をいただきました。どの作品も、緊張して用紙に向かって書いていた様子が伝わってくるものでした。自らの歌を自ら表現する、それがとても貴重な経験であることがよくわかります。

これらの自筆清書は、短歌大会当日に会場二階ロビーに展示したほか、一月中には宮柵二記念館のホールに展示いたしました。次回も、特別賞の受賞者には自筆清書をお願いする予定です。



選者のことば

今を大切に

日野原典子

宮柵二記念館全国短歌大会も第16回を迎え、その選者を務めさせていただきまして、嬉しく存じます。今年は何年にもない猛暑に見舞われ、真夏日が続きました。その影響かどうか不明ですが、一般の応募者が少なかったのは残念でした。しかし、そんな中から応募してくださる方も多く、皆様の熱意に感服いたしました。

一般の部は、応募者がそれぞれに生に真摯に向き合い、周囲にもこまやかな目を注ぎ、政治や国際情勢や時代の推移にも思いをいたしておられる視野の広さに目を見

張りました。また、稲作や畑仕事がいきいきと詠まれ、雪国特有の情景や人々の心意気が伝わって、心打たれました。ジュニアの部の応募の多いのは驚きました。最も多いのは小学生の部で、自然の中でのびのびと過ごす日常がうかがえ、捉われな

日野原典子

1928年、台湾台北市に生まれる。日本女子大学家政学部卒業。宮柵二歌集『山西省』に感動し、1959年に柵二主宰のコスモス短歌会に入会。第36回コスモス賞を受賞。現在、コスモス短歌会選者。コスモス神奈川支部報編集。蒲田産経学園短歌講師。日本歌人クラブ、横浜歌人会各会員。東急沿線歌話会世話人。



選者のことば

さまざまな思いの歌

大島史洋

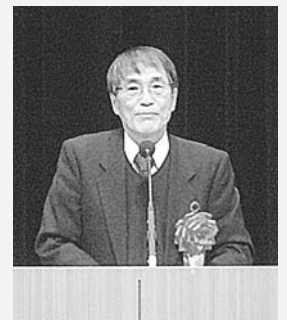
このたび、第16回宮柵二記念館短歌大会の選者として多くの方々のもうれしく思いました。一般の部では、高齢化社会による一人暮らしの寂しさをうたった歌や、介護の歌、施設での日々の歌など、現代の社会が抱えているさまざまな問題に呼応するような作品が多く見られました。若き日の生活をなつかしむ歌も多く見られ、出詠者にはやはり高齢の方が多いのではないかと印象を受けました。

また、宮柵二を師としてなつかしむ歌もいくつも見られ、この短歌大会に厚みといろどりを添えていると思いました。小学生の部には、かわいらしい歌が多く、楽しませていただきました。夏休みの宿題として作っている生徒も多かったようで、暑さのなかで友達と遊んだ思い出や、冷たい食べ物の歌、また花火の歌など、小学生の日常生活の或る傾向がわかるようにも思いました。中学生の部には、小学生の延長のような歌も見られましたが、一方では、かわいらしさを卒業した自己批評の歌や社会批判の歌など

もいくつも見られ、今の中学生が置かれている問題などについても考えさせられるところがありました。高校生の部になると、さすがに大人の世界に近い思考の歌も見られました。比較的多かったのは、部活の歌、職業実習の歌、好きな人のことを思う歌などでしょうか。恋の歌は中学生や高校生の大きな特徴と言っているでしょう。大人になつたいつの日か、短歌を作った学生時代のことを思い出して、もう一度作ってみよう、と、そう思い立たれる日がおとずれることを願って私の感想を終わります。

大島史洋

1944年、岐阜県中津川市生まれ。慶応大学文学部卒業。早稲田大学大学院国語学専攻修士課程修了。1960年、未来短歌会入会、近藤芳美、岡井隆に師事する。山本健吉文学賞、日本歌人クラブ賞、短歌研究賞、若山牧水賞などを受賞。NHK全国短歌大会選者。現代歌人協会理事。日本文芸協会会員。



ニューズ&トピックス

柗二と白秋

ふるさとへの想い

— 短歌セミナー —

「ふるさとを詠む」



白秋。柗二双方のふるさとの写真集について、とても興味深いお話をいただきました。

歌人の田宮朋子さんをお迎えして、今年も短歌セミナーを開催しました。その中で、北原白秋の郷里・柳河の写真集『水の構圖』の「はしがき」を紹介していただきました。これは、四月に出版した写真集「宮柗二のふるさと」にちなんで、師弟の郷里の写真集を照らし合わせて見るといってお話でした。二十九名の参加者は、この貴重な話に耳を傾けていました。

三鷹市で初の

宮柗二資料展示

— 三鷹市市制施行六〇周年 —

「三鷹ゆかりの文学者たち」協力



三鷹市では初めてとなる柗二の本格的な展示に、2,664人がおいでになったそうです。

宮柗二が暮らした三鷹市で、今年、市制施行六〇周年を記念した「三鷹ゆかりの文学者たち」展が開催されました。三鷹市で柗二の資料が本格的に展示されるのは初めてのことです。書蹟のほか、鉛筆、眼鏡などの愛蔵品など、当館所蔵の資料二〇点も紹介されました。期間中には二、六六四人（一日平均一〇二人）の入場があり、宮柗二のことを広く知ってもらうことができました。

歌集『日本挽歌』の

作品から学ぶ

— 講演会 —

『日本挽歌』の歌をよむ」



柗二歌集『日本挽歌』を過去や完了の表現からひもといていった貴重なお話でした。

豪雪となった今年でしたが、この日も朝から雪が降り続きました。そんな足元の悪い中でも、二十一名の方々が岡崎康行さんのお話を聞きにきてくださいました。柗二歌集『日本挽歌』の中から、主に過去、完了などの助動詞を使った歌を抜き出し、その表現について詳しく説明してくださいました。短歌教室の参加者も多く、とても参考になったようでした。

ふるさとの光景が

七十一首の歌とともに

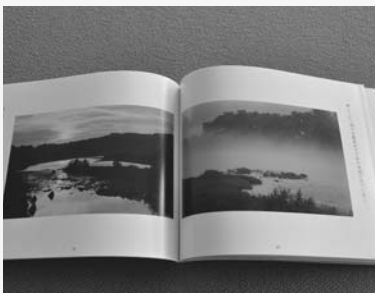
— 魚沼市制五周年記念事業 —

写真集「宮柗二のふるさと」刊行

宮柗二記念館では、

平成二十一年度の魚沼市制五周年を記念して、そのふるさとを詠んだ歌に美しい魚沼の風景の写真を添えて、一冊の写真集を刊行しました。

ふるさとにゆかりの歌七十一首を選び、写真と組み合わせ掲載していきます。写真は当館で五年間続けてきた「宮柗二の詩写真展」の出品作に新たな応募作品を加えた中から選びました。柗二の歌の世界と、ふるさとの写真家たちが写し撮った一瞬のふるさとの光景を味わってほしいと思います。



ページをめくれば魚沼の美しい風景が目に入ってきます。なお、在庫が少なくなってきましたので、ご希望の方はお早めにご購入ください。

◎価格 1冊 2,000円



新資料紹介

今年度も、貴重な資料を寄贈してくださった方がいらっしゃいます。深く感謝申し上げます。今後も、記念館収蔵資料として、大切に保存させていただきます。

- 「釈迦空書軸」 渡辺淑子氏より
- 「柗二肖像画」 羽賀龍介氏より
- 柗二関連書籍 小川栄子氏より



羽賀善蔵 柗二肖像画

長岡ペンクラブの初代会長・羽賀善蔵さんが平成17年に長岡中央図書館で「文人戯画展」を開催したときに、展示された宮柗二の肖像画。柗二とは同じ長岡中学出身で、交流があった。

強風を受けないように

— 前庭の『和合の松』を剪定



宮柗二記念館の前庭にある『和合の松』は、和風の建物と相まって、当館のシンボルとなつています。しかし、ここ数年は枝が混んできており、強風を受けると傾いてしまふ心配がありました。そこで、九月に枝の剪定の作業を行いました。

今年は豪雪とともに強風の日も多くありましたが、おかげで安心して見ることができました。



平成二十三年年度 宮柗二記念館 事業計画

◎平成二十三年年度 企画展示

- ・テーマ 「宮柗二と市井の歌」(仮題)
- ・期間 五月二十八日(土)オープン
- ・概要 宮柗二が生涯力を注いだ短歌の普及、多くの人たちが柗二から学び、歌を詠んでいきました。柗二はなぜ短歌の普及に努めたのか、柗二の作品やエピソードを通して考えていきます。

- ・準備 五月二十三日(月)～二十七日(金) 展示替えのため、休館いたします。

◎第17回全国短歌大会

- ・日程 募集開始 五月一日
締切 一般の部 七月三十一日
ジュニアの部 九月十日

- ・選者 現在交渉中
- ・内容 作品は二首 一、〇〇〇円。海外からの応募、ジュニア部門(高校生以下)は無料。

【短歌大会】

- ・日時 十一月二十七日(日) 正午～
- ・会場 堀之内公民館(魚沼市堀之内一三〇)

※大勢の皆さんからの応募をお待ちしています。

この他にも、「記念館短歌教室」のほか「名筆集」など様々な事業を企画し、宮柗二記念館の普及に努めていきます。



橋ひとつ架かれる川の下つ瀬を
櫛の木下に立ちて見放けつ 柗二

宮柗二記念館収蔵資料紹介 NO. 34

昭和41年、堀之内公民館で改築記念講演会に講師として招かれた柗二が、友人である公民館長にその場で依頼されて書いた一首。その後軸装され、公民館一室の床の間を飾っていた。

「友の会」からの
お知らせ

「宮柗二記念館友の会」では会員を募集しています。記念館友の会は宮柗二記念館の活動を支援するため、平成十三年に結成されました。会員には記念館だよりをお届けするほか、企画展や各種事業のご案内をいたします。年会費は一、〇〇〇円です。

詳しいことは、宮柗二記念館にお問い合わせください。

あとがき

今年度は猛暑の夏から三メートルを超える豪雪の冬、加えて東北地方の地震、津波の発生など、厳しい自然と向き合うこととなりました。当館でも平沢前館長の退任と小島館長の着任、教育委員会への所管替えなど、大きな変化がありました。変わっていくことは世の常ではありますが、その変化に対応していかなくてはなりません。

お詫び

「宮柗二記念館だより」の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

宮柗二記念館だより 第34号

発行 2011. 3. 25

問合せ 宮柗二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内130)

TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp

ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>